
編集後記：ハトが首を振って歩くのはなぜか。気になって考え込んだことがあります。電車のホームを闊歩する姿を見て、なぜ彼らは“飛ぶ”というアイデンティティを發揮しないのか、なぜ忙しく首を振って歩くのか、不思議に思いました。前者は未だに疑問ですが、後者については、あらためていま文献をあたってみますと、1930年にはDunlapとMowrerにより、鳥が首を前後に振るという認識は間違いであることが示された、とあります。首は、後ろに“振る”のではなく、その場に“とどめる”という表現が正しい。体は前に動いても、頭は地面に対してほとんど同じ位置に留まっている。写真付きでそう解説されています。このことから分かるように、あの特徴的な行動は、歩きながらでも目をなるべく同じ場所に留め、周囲をよく確認するため、という視覚的な要請からきているという説が有力なのだそうです。なるほど、鳥の目は人間と違って頭の側面についています。ペルトコ

ンベアの上をハトに歩かせて、これを確かめたFrostという学者もいます。(興味深いことに、重心を保つ、餌を探す、などの目的でも首振りが行われることを示唆する例もあり、現在でも完全な解釈は存在しないとのこと。)

翻って、「天気」のことですが、私はこの2年、“気候情報”のコーナーの編集を担当させていただいています。執筆者には、前の月に世界で起こった気象災害ニュースを要約し、大気循環場の図を添えて、興味の種類を読者に提供していただいています。毎号決まった体裁の図が並ぶので、すいすい、と見慣れた読者の目が記事の上を通り過ぎてしまうのを予感しながらも、なるべく多くの方に“首”を留めていただけるように、編集の面から最大限のお手伝いを続けていきたいと考えています。

(平原翔二)